

西諸広域行政事務組合の概要

西諸広域圏域の概要

本圏域は宮崎県の中西部に位置し、東は西米良村・綾町・宮崎市高岡町、西は鹿児島県、南は都城市、北は熊本県に接した地域で、東西47km、南北31km、面積931.27km²であり、中心市である小林市は宮崎県庁所在地から46km、宮崎空港及び鹿児島空港から1時間内に位置する。

気候は、夏期に暑く冬期に冷え込む典型的な温暖湿潤気候で、四季の変化に富んだ自然豊かな環境である。

河川は、小林市とえびの市を境として大淀川水系と川内川水系にわかれ、東部は、小林市須木から本庄川及び浦之名川が綾町を貫流し、小林市から岩瀬川が小林市野尻町と都城市高崎町を貫流、高崎川が高原町に端を發し、それぞれ下流の大淀川に注がれている。

西部は、川内川が九州山脈を源にして、えびの市の中心部を流れ鹿児島県へと注いでいる。

周辺の山岳地帯は、森林資源が豊富で多量の林産物を産するほか、霧島錦江湾国立公園の「えびの高原」、火口湖として知られる「御池」、自然美の景観を誇る「大幡山周辺」、県立公園の「矢岳高原」、人造湖の「岩瀬ダム湖・綾南ダム湖（小野湖）」、全国名水百選に選ばれた「出ノ山湧水群」、その他「京町温泉郷」など観光資源も豊富である。

また、岩瀬川の小林市と小林市野尻町境には絶滅危惧種の水草「オオヨドカワゴロモ」が世界唯一自生している。

交通網は、JR吉都線・JR肥薩線・国道221号線・国道223号線・国道265号線・国道268号線が縦横を走り、食糧供給基地としての流通拠点でもある。

また、高速自動車道は、えびのIC、小林IC及び高原ICの3か所のインターチェンジを有し、「宮崎県の西の玄関口」としても、重大な拠点となっている。

(平成28年12月31日現在)

圏域内における人口・世帯の推移

本圏域の人口は、昭和30年頃には12万人を超えていたが、その後毎年減少し、国勢調査人口で昭和50年90,754人、昭和55年92,792人、昭和60年94,242人と各構成市町村でも微増で推移していたが、平成2年の国勢調査人口では92,290人と小林市を除く他の市町村は減少しはじめ、平成7年の国勢調査人口では90,319人、平成12年の国勢調査には87,857人、合併後の平成22年の国勢調査には79,876人と8万人を割り込み、平成27年の国勢調査では75,059人となり、全構成市町で年々過疎化、少子化により減少している。

一方、世帯数については国勢調査の昭和50年26,647世帯、昭和55年28,530世帯と年々増加してきており、昭和45年国勢調査時1世帯当たり平均3.7人家族が、平成2年国勢調査では、1世帯当たり平均3人弱となり、平成7年国勢調査の1世帯当たりは2.8人、平成12年国勢調査では1世帯当たり2.7人、平成27年国勢調査では1世帯当たり2.3人と著しく核家族化が進んできている。

市町村名	平成17年 国勢調査 人口	世帯数	平成22年 国勢調査 人口	世帯数	平成27年 国勢調査 人口	世帯数	面積 km ²
小林市	38,923	14,935	48,270	19,576	46,221	19,498	562.95
(旧野尻町)	8,670	3,261	※1	※1	※1	※1	
(旧須木村)	2,227	883	※2	※2	※2	※2	
えびの市	23,079	9,148	21,606	9,078	19,538	8,568	282.93
高原町	10,623	4,070	10,000	4,042	9,300	3,914	85.39
合計	83,522	32,297	79,876	32,696	75,059	31,980	931.27

※1 平成22年3月23日小林市と野尻町、 ※2 平成18年3月20日小林市と須木村が合併

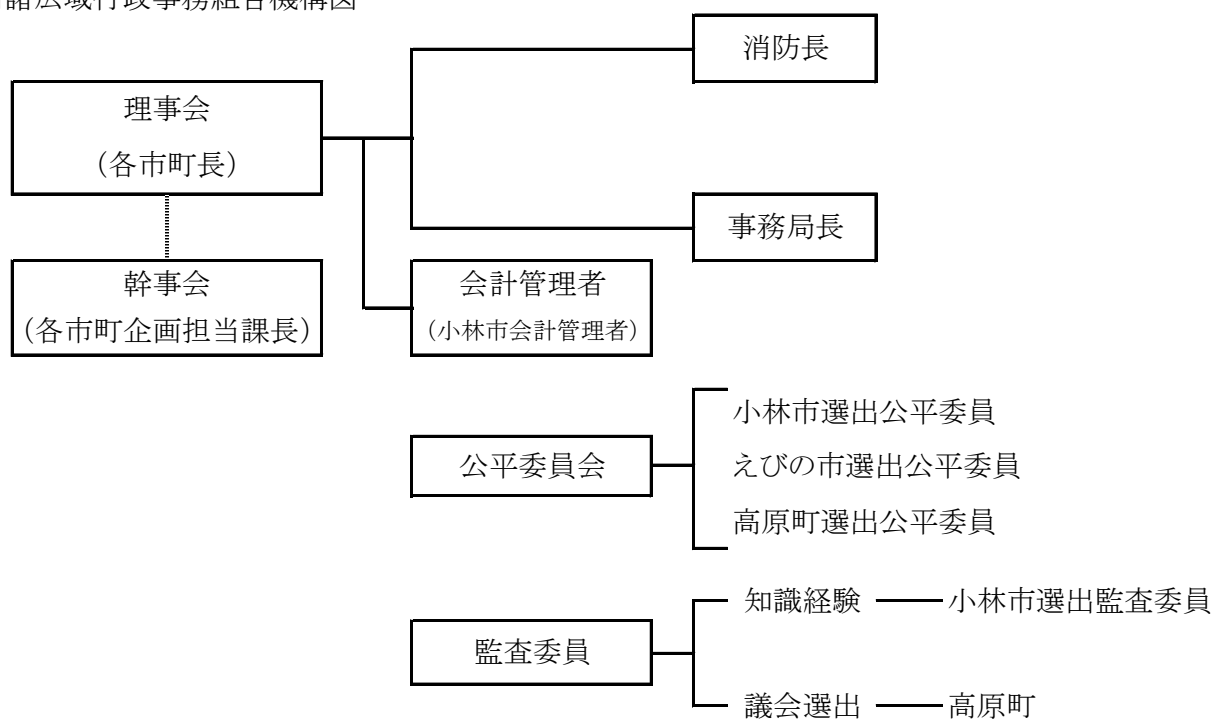
西諸広域行政事務組合の事業と組織

共同処理事業

1. 関係市町職員の合同研修
2. 常備消防(本部・署所)の設置及び管理運営
3. 西諸広域葬祭センターの設置及び管理運営
4. ごみ処理施設の設置及び管理運営

組 織

西諸広域行政事務組合機構図



議決機関 (議員定数11名・構成市町議会議員)

